

あいなんちょう

愛南町ぎょしょく普及推進協議会

[愛媛県：活動期間16年]

新型コロナ等による社会環境変化にも DXで持続可能になるぎょしょく教育活動

* DX（デジタルトランスフォーメーション）：デジタル技術による変革

町ぐるみで7つのぎょしょくを推進

7つのぎょしょく（魚に触れる魚触、魚の生態や栄養を学ぶ魚色、獲る漁業を学ぶ魚職、育てる漁業を学ぶ魚殖、伝統的な魚文化を学ぶ魚飾、魚を取り巻く環境を学ぶ魚植、魚の味を知る魚食）により小中学校などの授業や行事で、産地と消費地の相互交流を図っています。愛南ぎょレンジャーという親しみやすいキャラクターを活用し、子供たちにも分かりやすくぎょしょくを伝えていきます。



7つのぎょしょく
（魚に触れる魚触）



この魚なんて名前だろう？

社会環境の変化に対応した ぎょしょく教育

愛南町の小中学校では、情報端末が1人に1台導入されています。それを活用し、ホームページを充実させていつでも学べる環境を整えるほか、動画やアプリケーションを効果的に使用することで、楽しみながらぎょしょく教育を推進しています。



タブレット端末を使った
授業の様子



魚をさばく疑似体験で 興味を引き出す

ぎょしょく教育の出前授業などでわかりやすく伝えるためのDXのひとつとして、アプリケーションによる「真鯛の3枚おろしに挑戦」を制作しました。子供たちが、ひとりで何回でも疑似体験を行うことができ、「本物の鯛をおろしてみたい」という興味を引き出し、学びにつなげています。



疑似体験アプリケーション



パソコンで3枚おろしを体験



この度は我々の活動を評価していただき、誠にありがとうございます。町内の小中学校に導入された情報端末の利用や、リモートによる遠隔授業など、時代のニーズに併せつつ今後も積極的に活動していきたいと思います。

愛南町ぎょしょく普及推進協議会
会長 竹田 英則